

1. 単元名(主題) 「リサーチクエストを導出しよう(前編)」

～先行研究調査を踏まえた、仮テーマから問いの精緻化への展開～

2. 本時の主題の概要および設定理由

本時の主題「リサーチクエストを導出しよう -前編-」は、生徒がこれまでに設定した研究テーマをさらに掘り下げ、調べ学習から本格的な「課題研究」へと発展させるための極めて重要なステップである。

前時までに、生徒は「(1)研究テーマの決定」において、個人でのキーワード連想や生成AIによる多角的な問いかけをヒントに、チームとしての仮テーマを決定した。さらに「(2)先行研究の調査」に取り組み、自身のテーマに関連する既存の論文や資料を調査することで、課題への理解を深めてきた。

本時では、これらの先行研究調査の成果を踏まえ、漠然とした「疑問(問い)」を、課題研究において解決すべき本質的な問いである「リサーチクエスト」へと引き上げるプロセスに入る。

7月の「プレ研究計画発表会」という中間目標を見据え、まずは多様な「問いの種類」の枠組みを学び、チームのテーマに対して複数の多角的な問いを立てる。これにより、調べ学習に留まらず、自ら仮説を立てて検証可能な課題研究の土台(リサーチクエスト)を構築することを目指して、本主題を設定した。

3. 本時の目標

- 1) **目標設定と見通しの理解:** 7月の「プレ研究計画発表会」に向けたプロセスを把握し、発表会に必要な要素(テーマ、背景、リサーチクエスト、仮説・検証方法)を理解する。
- 2) **多角的な「問い」の立案:** 設定した研究テーマに対し、提示された「問いの種類(要因、比較、影響、変化など)」を適用し、複数の具体的な問いを立てることができる。
- 3) **協働によるリサーチクエスト導出の準備:** チームメンバーとの対話を通じて、先行研究の知見と自分たちの素朴な疑問を照らし合わせながら、「プレ探究ノート」の(1)～(3)を主体的に進める。

4. 本時の準備・使用教材

- 教員用提示資料: 『SS I 総探-第05回スライド』
- 使用教材(副教材): 『課題研究メソッド 2nd Edition』(岡本 尚也/新興出版社啓林館/2021)
- 生徒用ワークシート: 『前期プレ探究ノート』(Google Classroomにて配信済み)
- 共同編集用ファイル: 『プレ研究計画書兼報告書』(共有ドライブに原本テンプレート格納)
- 教員用管理資料: 『教室別名票』(各教室の担当教員に配布)、『HR別名票』
- 共有用デジタルファイル: 『前期プレ探究チーム決めスプレッドシート』(各教室用シート)
- 共通参照資料: 『高1 SS I 学習の手引き』

5. 本時の展開(50分)

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
2分	(1) 出席確認と授業環境の確認。 - 学問分野ごとに指定された教室に入室し、出席確認を受ける。座席は自由とする。 - 個人端末の準備を整え、Google Classroomから『第5回授業スライド(PDF版)』を表示する。	- ホームルーム別の出席確認を効率的に行う。 - 座席は自由とするが、出欠の不一致がないよう名票と照合する。
4分	(2) プレ研究計画書兼報告書の作成準備 7月に実施される「中間計画発表会(プレ研究計画発表会)」についての説明を聞く。 - 発表に必要な「研究テーマ」「研究背景」「リサーチクエスチョン」「仮説と検証方法」について理解する。	- スライド(p.2～4)を使用し、本日を含めて準備期間が残り4回であることを強調し、計画的な活動を促す。 - 中間発表では、Googleスライドを用いた1チーム4分のプレゼンテーション(質疑応答なし、相互評価あり)を行うことを説明し、評価基準についても意識させる。
4分	(3) 本日の活動の概要と、前時までの振り返りを行う。 - 本時の目標が「プレ探究ノートの(3) 問いを立てよう」に着手することであることを確認する。 「(1)研究テーマの決定」および「(2)先行研究調査」のプロセスを短時間で振り返る。	- スライド(p.5～13)を使用 - テーマ設定において、個人ワークから生成AIの問いかけを活用し、ディスカッションを経てチームのテーマにまとめたプロセスを復習する。 - 前回の「先行研究調査」は時間を無限にかけられるため、一度区切りをつけて次のステップ(問いを立てる)に進み、必要に応じて調査に戻る必要があることを説明する。
5分	(4) 「問い」を立てることと「リサーチクエスチョン」の重要性を理解する。 - 調べ学習(既知の答えを探す)と課題研究(未解決の問いに挑む)の違いを理解する。 - 漠然とした「問い」から、本質的な問いである「リサーチクエスチョン(RQ)」へ発展させる流れを掴む。 - 提示された「問いの種類(要因・比較・影響など)」や具体例を参照する。	- スライド(p.14～19)を使用 - 単なるテーマの設定から一歩進め、解決すべき本質的な問い(リサーチクエスチョン)を設定することが課題研究において最も重要であることを強調する。 「日本の災害時のトイレ問題」や「地域資源の活用による過疎対策」などの具体例を用い、どのような問いが立ち上がるか視覚的に解説し、各自のプレ探究ノート(3)の参照を促す。
33分	(5) グループワーク プレ探究ノート(1)～(3)に取り組む。 - 各チームでディスカッションを行い、これまでに調べた先行研究も踏まえながら、研究テーマに対する「問い」を複数立ててプレ探究ノートに記入する。 - 本日中に(2)先行研究調査を完了し、(3)の問い立てに着手することを目指す。	- 担当教員は教室内を巡視し、進捗状況を確認する。 - 特に「調べ学習」的な問い(すぐに検索して答えが出るもの)に終始しているグループに対しては、「なぜその現象が起こるのか」「他と比較するとどうなるか」など、問いの種類に応じた発展的な声かけを行い、思考の深化を支援する。 - 作業が遅れている生徒や欠席者への個別フォローを適宜行う。
2分	(6) 本時の振り返りと次回の予告 - 本時の進捗を確認し、プレ探究ノートの保存を行う。 - 次回の予定(プレ探究ノート(3)の続きおよび(4)リサーチクエスチョンの最終決定)を確認する。	- スライド(p.20～21)を使用 - 今回のワークで立てた複数の問いから、次回はさらにリサーチクエスチョンを精緻化・具体化していくプロセス(「いつ」「どこ」「だれ」の具体化や検証可能性の検討)へ移行することを予告する。